

あなたの地域は大丈夫？



地震発生!!



令和4年度 やおきら交流会

「自分たちで守る命の絆

地域防災力向上に向けてできること」

防災の主体的な担い手として女性の力が注目される中で、令和元年度のやおキラ交流会から八尾市内で活躍する女性を中心に、防災について意見交換してきました。毎年参加してくださる方もいれば、はじめての方もいますが、地域防災力向上には、地域で防災の意識をもつ人が増えないと高まらないのではないかと考えています。

そこで、今年度は、令和4年11月5日（土）に「自分たちで守る命の絆～地域防災力向上に向けて～」とし、地域で防災の取り組みに参画する住民を増やすべく開催しました。

やおキラ交流会を通じて学び、意見交換する中で、「今、災害が起きたら、八尾市は本当に大丈夫なのか」と考えさせられています。

皆さんは、今、このリーフレットをどのような想いで手に取ってくださっていますか。自分の命を自分で守るためにも、このリーフレットをきっかけに、今一度考えていただければ幸いです。

1. どんな防災・減災対策を考える？

先生) あなたは、なぜ防災・減災を考えますか？

Aさん) 急に聞かれるとなんでだろう。何となく、準備だけはしているかな～。

Bさん) 災害が起きた時に、困らないようにですかね？

先生) 具体的に何を準備されていますか？

Aさん) 非常時持出袋、避難所までの経路の確認とか、発災後の家族との連絡先とか・・・



災害時、困らないように準備することも大切ですよね。
しかし、災害時の死亡原因は、地震そのものではなく、地震に伴う家屋の倒壊などで、窒息死・圧迫死が6割を超えます。次に外傷性損傷です。
困らないように準備されたものは、生きていて役に立つものになります。
生き残るために何を準備して、どう行動するか、
こちらも考えて欲しいと思います。



2. 「地域防災力」ってなに？ 私たちの「地域防災力」を向上させるには？

先生) まず、はじめに、みなさんに2つ質問させてください。

今、八尾市内で「震度5強」の地震が起きました！！

(YES・NOで答えてください。)

問1. あなたは避難所に避難することにしました。ペットは連れて行きますか。
(飼っていない人は、避難所にペットを連れてきた人がいたら、受け入れるかどうか考えてください。)



問2. 消防団に参加している7歳の子をもつお父さん。
あなたがこのお父さんだった場合、一刻も早く地域の弱者を助けに行きますか。



この2問についても、さまざまな意見があると思いますが、正解はありません。
災害の規模や被害状況、また避難所によっても変わります。
いろいろなパターンを事前に想定しておくことが大切です。

【問1のペット問題】

東日本大震災の時も、避難所内でルールを設け、ペットと一緒に避難できた避難所もあれば、一緒に避難できなかったところもありました。
ペットを飼っている人は、連れて行けないとなった場合にするのか、事前に考えておく必要がありますね。

【問2の支援者問題】

仕事が先か、家庭が先か、多くの人が直面した問題です。
東日本大震災の時も254人の消防団員が救助活動中などに亡くなりました。
災害時は、支援者も被災者です。二次被害を防ぐためにも、自分の命は自分で守れるよう支援者自身も十分な注意をはらう必要があります。

ペットと一緒に避難できない時の預け先は、友人・親戚宅？ペットホテル？それとも、飼い主の避難先を変える？



先生) こんな場合はどうですか。

災害時、自宅の両隣の家が倒壊し、同時に救助を求められた時、どちらから助けますか？

A 宅の住人とは日頃から挨拶するなど交流があるが、B 宅の住人とはあまり話したことがありません。



また、こんなデータもあります。

阪神・淡路大震災の時、誰に助けられたかと言うと、100 人あたり家族 32 人、友人・近所の人 28 人、たまたま通り過ぎりの人 3 人、救助隊の人 2 人、その他 1 人とされており、

自助・共助 9 : 公助 1 とも言われているんですよ。
(自分の努力・地域の助け合い) (公的支援)



意外と救助隊に助けられた割合は少ないんですね。災害はいつ起こるか分からないし、今から準備できることをしておかないと！！



地域防災力とは、自分が住んでいる場所（地域）の防災力のことです。各自が、災害時に助け合える環境をどう整えておくか（共助）が重要です。あと、防災について正解があるものは、事前に学んでおくことも重要ですが、正解がないものについては、いざというときのために、シュミレーションしたり、家族で話し合ったりしておくことが重要です。

A さん) 町会活動に参加するだけでなく、ご近所さんに挨拶したり、そんなことから始めても良いんですね。
B さん) 先生のお話を聞いて、自分自身の避難所がどうなっているのか、地域活動してくださっている方にどんな方がいるのか、知りたいと思いました。



八尾市で活用できるリーフレットについて

① 「やお防災マップ～地震編～」

南海トラフ巨大地震による八尾市における最大震度は「最大6弱」、生駒断層帯地震による最大震度は「最大7」とされています。「やお防災マップ～地震編～」には、避難場所の地図や身を守るポイント 10、応急救護の方法などがまとめられています。

※やおキラ交流会内で投票した「災害時のメニュー例」の記載もあり。



やお防災マップはこちら↑

② 令和元年度やおキラ交流会

「みんなにやさしい避難場所を考えよう」を開催し、誰もが安心して生活できる避難所を実現するためのポイントをまとめています。

③ 令和3年度やおキラ交流会

「誰でも今からできる！コロナ禍でも安心できる防災・減災対策」を開催し、分散避難の方法や被災状況に合わせた備蓄、対象者に合わせた必需品などをまとめています。



やおキラ交流会はこちら↑

3. 災害時のポイント

「津波てんでんこ」とは、共倒れしないように「各自、急いで逃げろ」という意味で、東日本大震災後言われるようになった合言葉です。過去の大津波を経験した方々は、家族を助けに戻ったがために共倒れになったという悲劇を知っています。同じ悲劇を繰り返さないためにも、災害時の対応ルールについて、事前に考え、家族や地域の人々と共有しておきましょう。

例)・救助にあたるのは30分までにする

- ・「～ながら」を使った対策を考える
(助けながら逃げる、逃げながら危険を知らせる など)



4. 地域で防災・減災を考える仲間を増やすには?? (地域活動者用)

先生) 防災に特効薬はありません。

状況、立場、対象、地域、個人の価値観によって答えは変わってきます。地域や人々の事情を考えながら、自分の地域ではどうするのか話し合ってみましょう。

■防災ゲーム「クロスロード」を開催するときのポイント

- ・条件付きのYES、NOとなることが多いため、各地域によって事前に考えておく。
- ・話し合いによって「その場での正解※」を作っておくようにする。

※答えは、場所や参加者などにより異なってくるため。



■ワールドカフェなど「話し合い」をするときのポイント

- ・自己紹介をする
 - ・相手のことを知る
- ・平等な話し合いの土台づくり
 - ・話し合いのルールをみんなで決める
 - ・相手を非難しない
 - ・少数意見を否定しない
 - ・誠実な態度で他の人の発表を聞く など
- ・司会進行役を決める
 - ・発言者に偏りがでないよう工夫をする
 - ・話が脱線しないようにする
 - ・話し合いの時間管理を行う
 - ・意見の積み重ねにより納得のいく結論を見出す など



アドバイス 「アイデアを発展」させるには、①協議になれておくこと ②方向性を見出して決めていく力を身につけること ③見通す力をつけること ④臨機応変に進めていくことが大切です。



講師：龍谷大学政策学部
准教授 石原凌河さん

二次被害を防ぐためにも、「自助」とは、自分だけで助かることでもあります。
「自分の命を災害から守るための防災」^{イコール}「大切な人の命を守るための防災」です。
防災について、各自、大切な人に伝えていきましょう！

発行年月 : 2023年(令和5)年3月
刊行物番号 : R4-213
発行 : 八尾市役所人権政策課
電話 : 072-924-3830
FAX : 072-924-3570